

■ 共同研究班の概要 Summary of the Joint Research Group

班	課題公募班（一般A班）
Group Category	Type A1 Research Projects (Publicly Offered Projects)
設置期間	2024年4月～2027年3月
Period of Activity	April 2024 – March 2027
研究課題名	「日本のアジア主義」再考
Research Topic	Rethinking “Japanese Asianism”
研究目的の概要 （400字程度）	<p>東アジア共同体構想は、1990年代のASEAN台頭を背景としてこれに日中韓三か国が加わる形で成長した。この間、戦後のアジア主義については保城広至『アジア地域主義外交の行方：1952-1966』（木鐸社、2008）のような画期的研究があり、戦前については拙著『「大東亜戦争」はなぜ起きたのか』（ミネルヴァ書房、2010）や拙編著『アジア主義は何を語るのか』（同、2013）も含めて、「アジア主義」研究は大きく進んだ。しかし2012年に噴出した日韓・日中対立と共に東アジア共同体の機運は急速に萎み、その後の米中対立やロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮によるミサイル発射などと共に「新冷戦」が叫ばれる今日、「アジア主義」の再生を現実の世界で夢みる者はなく、その研究も下火になりつつある。</p> <p>しかしこうした今だからこそ、日本の「アジア主義」についてこの間蓄積されてきた研究を整理した上で、新たな論点を加えてその概念や分析枠組を再検討し、多様な可能性を持つ「アジア主義」概念の再構築を図ることが、本研究の目的である。</p>
Summary of Objectives (Approx. 400 characters)	<p>The East Asian Community concept, consisting of a trade bloc that included Japan, China, and South Korea, grew out of a number of new international phenomena that emerged in the 1990s, such as the rise of the Association of Southeast Asian Nations (ASEAN). During this period, groundbreaking research on postwar Asianism began including Hiroyuki Hoshiro's “The rise and fall of Japan’s regional diplomacy: 1952–1966” (Bokutakusha, 2008). In addition, research on prewar Asianism made great strides with the publication of a book written by Masataka Matsuura, “Why Did the Greater East Asia War Happen?” (Minervashobo, 2010), and another book edited by Matsuura, “What Does Asianism Tell Us?” (Minervashobo, 2013). However, the momentum for the East Asian Community concept rapidly waned owing to the tensions that erupted between Japan and South Korea and between Japan and China in 2012. Moreover, with the subsequent confrontation between the US and China, Russia’s invasion of Ukraine, and North Korea’s missile launches, the world seems to be witnessing a new Cold War. Dreams of a revival in Asianism in the real world no longer seem feasible and research on this subject is declining. However, in times like these, we have to reexamine the concept and analytical framework of Asianism by organizing the accumulated research on Japanese Asianism and incorporating new issues. It is also an opportunity to reconstruct the concept of Asianism with its various possibilities.</p>
研究会開催予定等	年5回 土 14:00–17:00
Planned Meetings, etc.	5 Times / Year, Saturday 14:00–17:00

■ 班員名簿 Member List

最終更新日：2025年6月6日
Last Update：June 6, 2025

Nº	班長・副班長	氏 名	区分	所属 ・ 職名	専門分野	共同研究における役割分担 （30字程度）
Nº	Coordinator / Deputy Coordinator(s)	Name	Category	Affiliation / Position	Field of specialization	Division of Roles within the Group (Approx. 30 characters)
1	班長	松浦 正孝	私立大学	立教大学法学部・教授	日本政治史	研究全体の統括、日本のアジア主義の検討
2	副班長	福家 崇洋	所内	・准教授	近現代日本社会 運動史・思想史	日本のアジア主義についての総括、事務
3		小堀 聡	所内	・准教授	戦後日本経済史	経済史からのアジア主義の検討
4		石川 禎浩	所内	・教授	中国近現代史	中国からのアジア主義に対する視線の検討
5		村上 衛	所内	・教授	中国近現代史	中国からのアジア主義に対する視線の検討
6		駒込 武	学内（法人 内）	教育学研究科・教授	台湾近現代史	台湾におけるアジア主義の検討
7		奈良岡 聡智	学内（法人 内）	法学研究科・教授	日本政治史	日本のアジア主義の検討
8		日向 伸介	国立大学	大阪大学大学院人文科学研究科 外国学専攻・准教授	タイ近現代史	タイにおけるアジア主義の検討

№	班長・副班長	氏 名	区分	所属 ・ 職名	専門分野	共同研究における役割分担 (30字程度)
№	Coordinator / Deputy Coordinator(s)	Name	Category	Affiliation / Position	Field of specialization	Division of Roles within the Group (Approx. 30 characters)
9		中尾 沙季子	国立大学	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部・講師	西アフリカ現代史	汎アフリカ主義から見たアジア主義の検討
10		清水 美里	公立大学	名城大学国際学部・准教授	アジア史・社会経済史	台湾のインフラから見たアジア主義の検討
11		関 智英	私立大学	津田塾大学学芸学部・准教授	中国近現代史	中華圏と日本との間でのアジア主義の検討
12		水谷 智	私立大学	同志社大学グローバル地域文化学部・教授	ヨーロッパ史	「開帝国」の視点からの検討
13		立本 紘之	私立大学	法政大学大原社会問題研究所・兼任研究員	日本近現代史	共産主義との関係から見たアジア主義の検討
14		平井 健介	私立大学	甲南大学経済学部・教授	経済史	台湾の産業などから見たアジア主義の検討
15		高 潤	私立大学	立教大学法学部法学研究科・大学院生	アジア政治経済史	中国における日本のアジア主義の検討
16		小山 俊樹	私立大学	帝京大学大学院文学研究科・教授	日本政治史	日本のアジア主義の検討